

後悔無し方針に従う大局長期視点では、きつい大変革でしか救済はないと思われる。

[1]:現状世界認識:

過去現在の米英中心の世界政治経済体制に於いて、**英米既成覇権保守(右翼)勢力**とそれと妥協、かつ拮抗してなほかつ各国経済を持ち上げて世界に幅広く商売を展開すると目論む**国際派企業権力(左派)**と言う基礎視点があります。両者共通して目指した事は米経済主導での世界経済拡大、その為に米国が率先して技術提供と市場開放をして各国生産を持ち上げ、それ等生産物資を米が輸入、そこで得た利益を米投資還流する事で米市民と米企業が**拡大生産消費**に励むと言う従来図式でした。然るにそれは

(1)米国負債投資先導での**自転車操業**、〈負債総額＝通貨資産総額の0サム定理〉。

事実、長く従来より米国はダントツの負債額世界一です。

(2)如何に米国の旺盛な消費市場といえど所詮有限であり、商売ねたも無限でない。

必ず**市場飽和**が逆転して不況が始まる。投資先行市場では金融破綻が必然化。

(3)この構造からすれば**何時か**と言う大問題は残ったにせよ、米国破綻は不可避が結論、破綻時間を決めるのは借金返済不可能を権力が公にした時〈**レーマン破綻世界告知**〉、このタイミングには深い意味がある。実態的には二年前 2006 年時点で住宅転落開始、黙って連銀融資(\$供給情報停止は 2006)を継続すればまだ遣れた可能性がある!

ちなみに日本公債 800 兆円は到底、返済不可破滅的なのだが、いまだヘチャラである!

原理的に**借金を借金で返済可能な期間**では負債額無関係に幾らでも経済回転、

正し**金利膨張**が経常収支中での-自由支出采配を圧迫する(予算総額中国債費 20 兆)。

(4)右派はレーガン、ブッシュ世襲二世代で明白な様に貴族富裕層優遇、国家財政赤字化路線で貧富差拡大、世界的にも英米 WASP 優生主義の軍拡 CIA 右翼専制路線。

〈国家国民は優生主義専制貴族の搾取対象としての奴隷⁽¹⁾〉と言う 18 世紀ヘーゲル思想

「常に敵を設定しての永久戦争路線」の軍需産業弁証法的論理?とか言う。

簡単に言えば彼等こそは成敗すべき**無神論餓鬼道思想本流**、

(5)左派は**経済暗黒穴**の軍事経済路線を抑制して、民活財政健全路線国際派。世界混乱の筆頭原因は各種権益をめぐる民族闘争、この最終解決をまず経済を通じて政治国際化を計り、共有関係を構築する事で民族主義先鋭化を緩和していくと言う路線。民主世界平準化を促進する**"エリート"集団権力**。ケネディとクリントン等の軍事抑制路線の背後にある権力、彼等は共通して CIA 軍需産業陰謀に苦しんだ。世界は表向き制度民主主義を標榜するが実態は既成貴族権力と新興財閥との権力闘争、もしくは先進国と途上国の権益闘争でもある。今回交代劇は破綻ブッシュと再生を目指すオバマの右から左への否応なしの転換。上記左右は相互に絡み合うので単純な色分けが難しい。

(6)だが今回ばかりは誰が大統領でも米国は困難化。世界も過去に無く困難化。

非米資金供給国→巨大擬似島国米国への世界資金還流と言う**大海流停止**が決定的！、非米諸国も破綻暴露で一気金融流停止事態に、必然的に実物経済落下も加速。

(7)Paulson, Greenspan, Barnanke 等の財政組は右翼ブッシュ政権にあっても国際派 wall

街出身でないのか、彼等が世界経済大回転に待ったをかけたのだ！彼等も公には馬鹿を偽装するが、大破綻進行は当初から承知だったはずだ。特に抵当ロンCDSのカラクリは時限爆弾を意図した物だろう。カラクリ発端を考えた連中は判明してるが本流化するに相応の関門があるはずだ。では何の為に米国と世界経済大回転を、この今に於いて止めるのか？。何らかの歴史認識転換、もしくは規定の計画発動条件適合の判断？、20年前に筆者国際政治基礎知識を教育した赤間剛氏の「神々の陰謀 I II III」⁽²⁾の説を下地にこの20年間の現実経過等の補足情報を加味して解析すれば、世間常識とは一変して

(8)欧米権力は右も左もオカルト(宗教、超能力預言)が隠れ背景思想にある。突き詰めればそれは**無神論と有神論**になる。前者はマルクス主義唯物論が一番有名だが、実態は逆で右翼(英皇室とゲルマン系貴族-資本勢力)こそが隠れ無神論(反ユダヤ..)。彼等は技術と商業に優れて産業革命勃興、世界を物質繁栄追及の資本主義現体制化で主役になった。現代最大特徴は圧倒的な物質化経済力支配。一般民衆も物質栄華に心酔、だがそれは同時に世界大での**貧富格差拡大**、他方で混乱戦乱資源破壊等と**生活困難拡大**でもある。**<神への離反と世界のサタン支配化(般若心経で言う顛倒夢想の世界)>**。

この概念はユダヤ、キリスト、イスラム教徒以外、日本中国韓国人等では認識が難しい。西欧人や中東人ですら、現代では難しいだろう。だが世界には隠れ賢人が居るのだ。

(9)近現代が**悪魔支配**にある最大決定的証拠=戦禍増大と人為起源気候変動絶滅危機。

もし己の絶滅を招く様な文明ならば逆さま悪魔支配として文句無く同意いただけよう。

(a)特別に科学知識が無くても世界の異常気候進行での生活基盤大破壊増大傾向の多数現実を見ればわかるだろう。これに異を唱える人は現状酩酊であろう。特にアフリカ、

(b)大自然破壊の人間浅知恵と人類の突然の終末到来宗教ヨハネ預言、および現代預言者警告、危機時代に慈悲深い神は使者を地上に送るは真実、Jucelino Nobrega da Luz.

(c)科学的観測理論根拠：全球温度は**GHG** ガス濃度と太陽光氷層**反射能力**が決定の物理証拠。

(d)地球には石炭石油埋蔵量の2倍になる膨大な**不安定メタン氷塊 MC** が主に**海底**にある。融解が始まると温度上昇に強力作用、結果は更に温度上昇で融解の**地獄化循環**。古気候測定によれば古代に火山噴火 GHG で**メタン融解で種大絶滅が複数回**あった事実。人為 CO2 増大は特に北極圏温度を上昇、表層融解急速化で太陽光海面直射開始、測定によれば北極域はガス濃度上昇中。これを doomsday 時限爆弾と言う指摘が科学者間に起きてる！
<(d)は現状筆者では証明にないが、後悔無し方針に基づき警告>。

[2] : 将来への選択肢(序論) :

(1)北極現場探索の英米ロシア科学者等は現実を承知でしょう<数値資料公開が無い! ?>

だとすれば彼等の選択とは？、

(2)President-Elect Obama Faces Challenge of a 'Planet in Peril'.

"For even as we celebrate tonight," he said, "we know the challenges that tomorrow will bring are the greatest of our lifetime - **two wars, a planet in peril, the worst financial crisis in a century.**"

<<http://www.commondreams.org/headline/2008/11/05-4>>

<<http://my.barackobama.com/page/community/post/stateupdates/gGx3Kc>>

当選決定直後声明での**惑星絶滅危機への人類命運最大級挑戦**と言い切る認識に留意！、**two wars, だから戦時体制**として望むと言う決意姿勢になる。戦時体制シフトこそが鍵!!。彼参謀には強力なスタッフが揃い、進言を信頼してるのだ。ちなみに米は CO2 最大排出国にして気候変動科学では多分世界最先端(軍事情報収集相当)にある大矛盾国。戦後史米国沙汰言行を見ると米国支配層は悪の権化、到底信用するに値しない。だが米国人多数が前代未聞の**変革オバマ**に将来を賭けた。我々外国人にしても米国人の奇蹟に賭けるしかない。

(3)従来華美経済での石油消費が持続すれば近時、ほぼ人類はメタン大崩壊で絶滅危機、

これからは皆で食べてくだけの**高熱重病人同様**の常識逆転生活自覚しかないです。

ひたすら**大自然回復**に向けて尽力、無謀に走ると**排煙**で急死します<現状筆者見解>。

[3] : 将来への選択肢(試論) :

(1)米国オバマ声明、2015年までに1980年の80%までに energy change<詳細不詳>。

ニューデール政策として**鉄道再開発**と**原発推進**を遣るらしい。確かにCO2=0。

(2)英国はCO2排出量を2050年までに1990年比で少なくとも60%、2020年までに26~32%削減

<[http://ukin.japan.fco.gov.uk/ja/working-with-japan/energy-](http://ukin.japan.fco.gov.uk/ja/working-with-japan/energy-environment/targets-current-emission)

[environment/targets-current-emission](http://ukin.japan.fco.gov.uk/ja/working-with-japan/energy-environment/targets-current-emission)>。

(3)年間炭素会計視点では**総排出量=自然総吸収量**で平衡して**温度上昇停止**になるが、

{人為(7.6Gt)+自然(1.5)}排出=9.1={陸上(2.8)+海洋(2.2)}吸収+**大気中増(4.1)**⁽³⁾
で温度上昇中！。上記数値例では人為排出を7.6-4.1=3.5以下に抑制せねば救済が無い。

原理的に大規模な GHG 削減、かつ氷層反射増大をすれば**温度は即時低下可能**。

だがこれに対応する政策は如何なる国にも今の所、無い!!!!!!。

核爆発巨大塵による表層反射法も試案にある模様だが人類が生き残らないだろう。

幸いにも今後世界では大規模核戦争はないと言うのが Jucelino 師預言にある。

とは言えど未来は棚から牡丹餅ではなく、我々の意思が構築する問題である。

(4) 最悪シナリオ :

20年前に現状気候変動問題の物理学的本質背景にある化学反応の不可逆性の理論研究に関与して以来、経験した事はエネルギー自動車産業関係がこの議論を酷く嫌った事で、かつ現状でも明白な様に産業界支配現代では気候変動問題はマスコミが真相を取り上げない。また石油、自動車ずけの甘い生活を一度知った一般大衆も右に倣えの無責任が横行、但し若年層は膨大な公債累積問題等もあって、長老支配現代社会の欺瞞無責任を承知する世代には気候変動問題の深刻さも知られてる模様だが、他方で無力感も支配的にある。

何故かような無気力状況になるか！、現代支配勢力が敗戦よりも政治経済体制革命を恐れるからだ。世界革命がないと上記(3)の理由で最悪のシナリオになる可能性が高いだろう。欧州は外見民主主義模範生だが実態は少数旧貴族支配にあるし、米国は頑強な少数経営者支配世界、いずれも政治革命を許さない強硬姿勢にあった。

現実を直視しよう。気候変動が進行すると世界はどうなるか、英国の報告を要約。What will climate change do to our planet? This is our future - famous cities are submerged, a third of the world is desert, the rest struggling for food and fresh water. Richard Girling investigates the reality behind the science of climate change。世界1/3が砂漠化、人が食糧、水を求めて相争うとある。

<http://www.timesonline.co.uk/tol/news/uk/science/article1480669.ece>

- 1°C (現状) : 氷島融解した海洋は熱化, 1/3世界で水不足、低地では海水侵食、
- 2°C : 欧州での熱死, 森林荒廃と山火事, 熱被害植物がCO2吸収から排出へ転換、1/3種が絶滅危機。
- 3°C : 植生と地上からのCO2排出, アマゾン密林死, 強力ハリケンでの沿岸都市被害, アフリカの飢餓(筆者注: これは1度で既に進行中),
- 4°C : 永久凍土消滅と温度上昇暴走, 英国の多くが洪水で居住不可、地中海沿岸放棄、
- 5°C : 海洋メタン崩壊と温度上昇加速, 両極氷層消滅、人動物が食糧を求めて移動だが無駄、
- 6°C : 地球最後の暴風雨黙示録世界化、洪水噴出、原爆並みの硫化水素とメタン火の玉が地球上で競合、僅かの避難者のみ生存、

気候変動被災simulation英国人研究者の感想によれば、かような事態が現実化した時、「最も驚愕すべきは地獄状況下での**人々の態度変容**」であったと言う。

植生が温度上昇でCO2排出が強調されてるが、これを鵜呑みは危険、超過ならば枯死。「筆者推定では**全球平均3度**上がったならMC500Gtonを抱える**北極地**は倍以上だからメタン崩壊で終わりです」。かようなsimulationは気候変動認識上、重大で他資料とも比較検証が必要です。

(5) **並行する不況深刻化と雇用所得=生活保障の政治大問題化：**

かってない不況模様で、今後は従来の雇用主体にあった自動車家電不動産-流通は窮地になるだろう。皆食品を中心に必要最低限度しか買わない姿勢が一層進行するだろう。米国同様にロン返済不能から住宅を手放す人も増加するはずだ。米国が不況化すれば米市場頼りのアジアも大打撃、それは回って日本の対アジア交易も縮小、八方ふさがりに成る。結論を先走れば個人努力ではもう救済は無いだろう。

(a) 中途半端な政策は結局、破滅を回避できない事になろう<現状趨勢>。

(b) 気候変動危機を直視するともう自由放埒経済は終わ、戦時体制としての**統制経済**になる。**期間1年限定CO2世界強制統制**で様子を見れば病状回復是非が決定できるだろう。

気候&経済両危機なれど現状の甘い生活に慣れた多数にすれば異論噴出となるだろう。

(c) 上記(a)(b)の選択は全諸国民の認識次第、難しい。筆者自身は過去での調査経験全般から来る気候変動科学界の緊張した状況が判るので了解できるが、現状保守のマスコミ支配下にある一般人には未だこの認識は難しい、現状筆者には将来予測を厳格に証明できる事情にも無いです。しかるに気候変動科学者多数が共通して言う事は、常に**現実**は**計算機予測を上回る速度で進行**してると言う話である*。

(d) これから基幹産業(食糧エネルギー通信-流通/行政)での回転に必要な人員を除く企業傘下では失業が起こる。過去のサラリーマン生涯成就と言う発想を転換すべきかとも考えます。もし本家が農家ならば農業に戻る事を推奨、ついでに職場仲間も引き連れると最善、それが適わねば職場集団で農村集団移住交渉、そこで食べてく算段もあるかと思う。労組にしても長期戦略に立つ労働量構造的移動と必要な政策折衝をすべきでしょう。GHG 吸収削減-氷層反射増大の技術政策大課題は幾らでも案があるだろう。

*¹：政策決定者に言うべき事だが、気候変動科学は本質的に解析困難な要素が多すぎる。

アインシュタインがした仕事は現象要素を記述する変数個数が極めて少ない原理問題、机上でできる仕事だった。だが気候変動科学は違う。システムを抽象的な連立方程式体系で記述できるだろうが、解を現実化するには現実データが必須になるが、全球に及ぶ海底埋蔵メタン氷塊の分布配置などは標本域測定での統計的平均推定でしかない。人欲望注視の金鉱山すら全部が判ってる訳でない。まして海流、海底全部を調べ尽くすなどは想像されたし。かような現実を考えたとき、**後悔無し方針**(no regret policy=不確定だが、取り返しがつかない一発懸念問題では対処行動を決断する)を皆が了解する事だけに尽きるだろう。

—参考書—

- (1) A. Sutton, K. Millegan, *Fleshing out skull and bones*, Trineday LLC, 2003, USA.
北田浩一訳, 闇の権力. スカル&ボズ、徳間書店, 2003.
CIA 創立に係るドイツコネの米国極右勢力の paper clipp 作戦等の歴史と思想(敵を設定しての永久戦争とか、国家国民は独裁優生貴族の奴隷のヘーゲル哲学)等に詳しい。
- (2) 赤間剛、神々の陰謀 I II III, 時の経済社, 1984, 1985, 1985.
没落防止同盟の少数世襲貴族財閥が裏表で支配する資本主義インタナショナルの実態。
- (3) 炭素会計に関しては IPCC 等多数出典があるが、精度は粗い。だが判断には充分。
<http://www.globalcarbonproject.org/global/pdf/GCP_CarbonCycleUpdate.pdf>
<http://lmacweb.env.uea.ac.uk/lequere/co2/carbon_budget.Htm>
<http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/db/co2/knowledge/ocean_uptake.html>